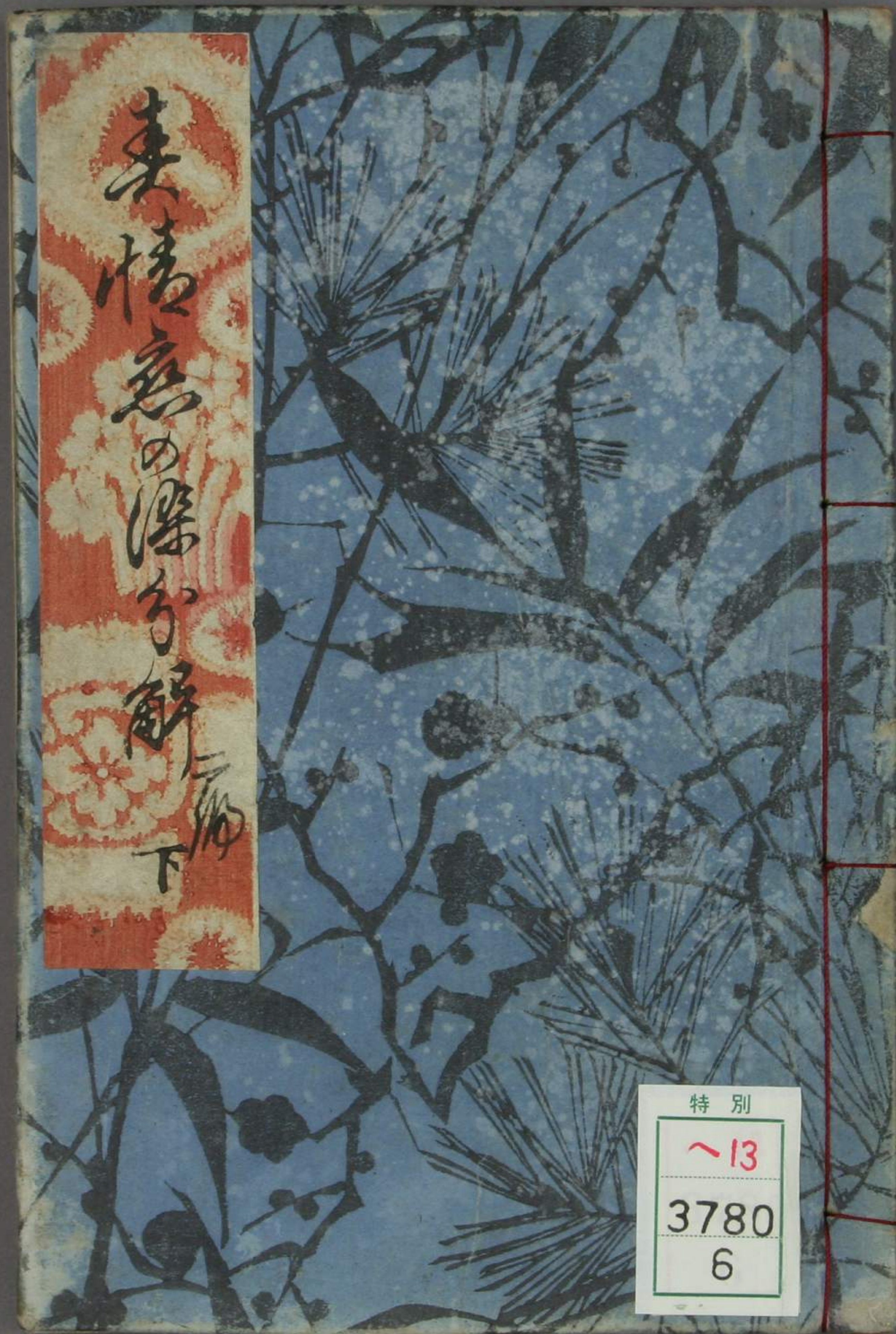
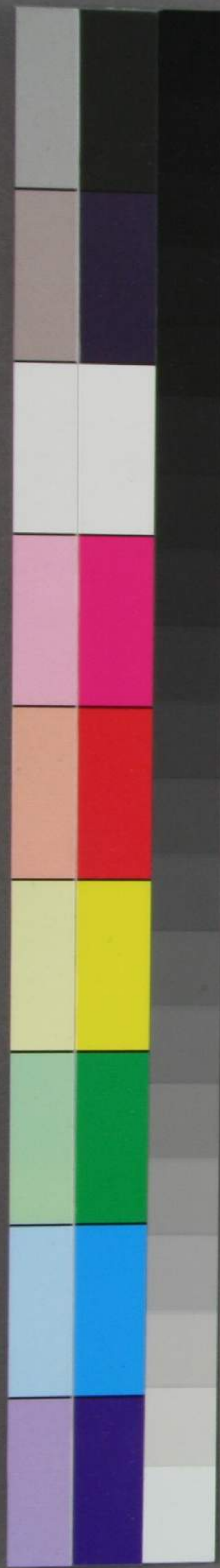




春情急の深を解下

特別
~13
3780
6



卷

素人素人のそとにけ

臃月亭有人著

第十一回

とちを
之子尾を史ホ

種ひどの元があのとりへ評判でーか子「さうかい
人がやううとすると始末のころあいのヨ牡丹由余り
るるさま佛事で唯和うくかあのが歳をヨ「そま
ぢややあゆひのりり子「あしあ人のやうな
泥田様おえどもうね人「内室さんよ若易とおひる
るのグーたんあうとあいま「是ぢや私の店あし
初まつとやうべ「トキニもう酒いあみんか服でてあ
かう「そまが結構サアくあわくとさうとさーお服と

志やせう

是より種よく喰ふゆそのひあく外子よりう
小金と産二ハ田圃のるあ二階よ人と産あを
是より種よく喰ふゆそのひあく外子よりう
「ア種よく喰ふとあんとりあまやね人「星の附あ
来まうとああうあせう子さうしてとんるああ人い
がせうにしてる元とあませうね「我輩とあうああ
代さうとあああさうさあそのん元とああ人あ

ぢんをぬぐうとあらて若衆でせいし由 燈サめんきふあまをんが
 さうぶとあらて若衆をあらとひけあの 一我経さうぶさうぶ
 ちふも宅へ入ると人のぶがし 障子もあつて今がしまと
 のふとけふもさうゆ人ぐまゝいともあめくさ 幸坊一とく
 えんね入 一津銭ぶさうさ 若衆めいへかまをあのヨかゆあ
 へあつていろうぶうと遠てあまをんのあといふととさうあ
 へい今やあぶくさ助えなと城のふ人いほし 産まんハざりしと
 あんぞと変人があつたはくさ 持いむのうけでむうり 居まんハ

さういふ
けろあんぞもま柳で十人一座でお客のお茶屋さんのお侍
さんせん
てん味線ひびきどきものううあんぞも冷やあんぞとさく
らんあ者どつさりうくさしして情念男のこえのう
けて望せうと云のでまヨ姫のうちいんみぐをを想うと長
まうけはあちのうづ研く来そのんでまううんぞ
みやま家の紋取んそき若の紋が新あいの燗酒入が
たのりのところくかこ城をそのろけるンでスヨ小万さんの
とまん
小万さんでさあさんの梅さ系唄あんぞとらへひ物さー

[illegible]

金「飲太さんの之法と人のいさうも音あめが別でま子」
 金「ふア、お人の風流乳があつゝ一寸いふのみ其があこ」
 金「はさうと麻やう」
 金「えあう今みけて来るごらう麻をだのやうに拾ひがたい」
 金「是もさうではま子といふ所中が」
 金「はいお休あさいしとお定まりの世界であつてへや」
 金「美難る内家さんふあると身主の席に就いて別々なる」
 のてまろね人「たれよ使どう川柳はニツ秋若一ツ北斎の

若し婦人のがみナ「ヲヤ助なるをばおへ物なり有る
はてあふ」ちつとめんて中うう「おまんのゆめさう
う松のも標をかえなまのナ「自色のをえ人のんてえね
「松のふせであつちやねサ「雲のいゝと云ふアちうさんざ
のまてゑて迹中うと云て「何人つけはるあんどまふ
の麻やか湯へ入つては洗ひつと云ふう何ぞといひく
松ふし人洗ひてゑてさつと云つては寝さふ「まぢや
来をいとう「の能くぬきまぐ「おまんとくおとの
金

「そんなふひぐゝあぢやア痛いや子トかくたひもあは業
くまのまのと同じのそ中ふふふ万々量の樂とあふんる
く「年々の秋具此者とありてゑとあり又雲とあり種々
鶴鳴つげうを縁森の如樂とあふぐのうまひもあふ
窓のよえ地のさまふ勝れた死にづるふあて待つまをあふ
とより房楊枝をうへ杯して湯あふ集ひ「ヨおまの換
扱ありて皆々神似成洋まうらひあのを産後の掃除も
そのひたれば若このゆめあへ集るとありあ人「昨日の夢を

[illegible]

一ツ両は種うにありぬち紙たのむせとこのゆの
 うちふ船版もおありなればとて種よく金とせ
 そのひ形ちのどくふ書の種居ふとづれ小金とせ
 二ハ小窓垣の陰よりを居る所の源七ふ門紙と
 あいせりふ内よりお十をた爺の出来り一とあ
 振ふふたもせぬが影は周ある本家の方へお出
 まるく下さるる
 「イエくおー」具形ふお目ふかつ
 におゆーやふともあり又個ひふ養もどふよう

